Team Beverage、2027年にWVG Getränkefachgroßhandelを卸売ネットワークに加える

ザクセン＝アンハルト州の卸売業者が従業員400人超、70店舗を擁し、東ドイツでの物流基盤も拡大

2026年11月24日（火）



Team Beverageは11月23日（月）、WVG Getränkefachgroßhandel GmbHが2027年1月1日付で同社の卸売ネットワークに加わると発表した。これにより、WVGの飲食業顧客も、共同調達、業務プロセスの改善、デジタル化を柱とする提携に参加する。

今回の提携により、ザクセン＝アンハルト州有数の飲料専門卸売業者と、ブレーメンに本拠を置く全国規模の飲料プラットフォームが結び付く。WVGは隣接するテューリンゲン州やザクセン州の一部でも事業を展開している。Team Beverageは、調達面での連携を強化するとともに、業務プロセ

スやデジタルシステムを刷新することが提携の狙いだとしている。

WVGのマネージングディレクター、Axel　Weydringer氏は、飲料専門卸売事業に注力するTeam Beverageの姿勢が提携の決め手になったと述べた。WVGはこの提携を通じて調達力を高め、業務プロセスをさらに発展させ、デジタル化を推進したい考えだ。また、卸売と小売の両分野における飲料流通の経験を生かすとしている。

両社によると、WVGの従業員数は400人を超え、取扱商品は2,500点以上に上る。卸売事業に加え、Getränke-Quelleの名称で自社運営の飲料専門店70店舗を展開しており、ザクセン＝アンハルト州最大の飲料小売事業者となっている。同社によれば、提携開始後もこれらの小売店の現在のマーケティング方針に変更はない。

WVGの物流網も今回の提携の重要な要素だ。同社によると、トラックおよびトラクターユニット35台、セミトレーラーとトレーラー50台を使って顧客に商品を供給している。このインフラにより、特に飲食業向けに、東ドイツでの流通基盤が拡大する。醸造所、ワイナリー、蒸留所をはじめとする飲料供給業者にとって、この提携は、グループの調達力を段階的に高め、地域のバー、レストランなど業務用顧客への販路を広げる可能性がある。

Team Beverageは、WVGが持つ地域での事業基盤と長年にわたる地元とのつながりにより、ザクセン＝アンハルト州とその周辺地域でネットワークが強化されると述べた。両社は、経験を共有し、卸売グループ内の連携づくりに積極的に取り組む方針を示した。

WVGの東ドイツでの事業は、東西ドイツ国境の開放後にさかのぼる。創業者のManfred Weydringer氏が事業を立ち上げ、その後、規模を拡大してきた。現在はAxel Weydringer氏とThomas Scharf氏が共同で経営している。Team Beverageによると、次世代を担うFelix Weydringer氏もすでに事業に加わっている。WVGはWeydringer Groupの傘下にあり、同グループにはWeydringer & Strohte GmbH、Bad Harzburger Mineralbrunnen GmbH、Okertaler Mineralbrunnen GmbHも含まれる。

Team Beverageは、自社をドイツの飲料業界を代表する調達、流通、マーケティング、サービスのプラットフォームと位置付けている。同グループは、飲料専門卸売、小売、飲食業、コンビニエンス分野の独立系パートナーに加え、システム顧客やメーカーとも連携する。同社によると、提供するサービスには共同調達や一括精算、販売・配送ルート管理、マーケティング、パートナーの競争力向上を目的としたデジタル・IT支援が含まれる。